

# 特定非営利活動法人自遊の広場 令和4年度事業報告書

## 1 事業の成果

令和4年夏以降、新型コロナ感染傾向が徐々に下火に向かった。しかし前年度秋から始まった利用者の減少は回復せず、経営的に厳しい状況が続いている。職員のモチベーションは低下せず、利用者の生活や笑顔は維持された。

法人の事業収入の9割を占める小規模多機能型居宅介護事業所（すずかけの家）の利用者が定員の4分の3という状態が1年半続いたことによる経営への影響は大きく、その状況を打開するため、参加型組織評価を実施し、中期計画の骨子を策定した。

## 2 事業内容

### (1) 特定非営利活動に係る事業

#### ア) 小規模多機能型居宅介護の運営に係る事業

##### ○内容

「すずかけの家」は、新型コロナの影響は受けつつも、令和4年度も小集団での外出は活発に行われた。ぐるっとお散歩篠原展を始め地域のイベントも復活した。ものづくり等「部活」による創作活動は、「いろとりどり展」への出品多数という形で結実した。

また、利用者の一部ではあるが、お話会や見守り等、学校・学童保育への協力、劇団キッズシアターへの出演等を果たした。認知症の方のこうした活躍は特筆に値する。

近隣の保育園「のびるっ子」との交流も復活した。「みんなの元気を祝う会（敬老の日）」には、すずかけの家の庭で園児たちがエイサー等を披露してくれた。

新型コロナの影響もあり、介護サービス利用控えが進み、利用者の減少で、少ない曜日は「通い」が5人未満を切るなど、寂しさも感じさせられた。利用者が定員の4分の3になるということは、収入も4分の3になるということである。その状態が1年半続いたことによる経営的行き詰まりが露呈した。

昨今の動向として、通院の多さは特筆に値する。高齢者は不安により職員の同行を求め、事業所としても正確な医療情報を得られるので通院同行は必要とは思いますが、救急対応時も合わせ職員1人が2・3時間以上かかりきりになる。本来家族にお願いしたいところを事業所に丸投げする傾向も時折見られ、人件費に響くという点と共に克服すべき課題であろう。対応策の1つとして、別途介護保険外での料金負担をお願いすることにした。

会議や研修は、例年通り実施した。職員会議はハイブリッドで行い、研修はオンラインで参加することが多かった。

○日時：通年

○場所：すずかけの家及び訪問家庭、外出先

○従事者：のべ2,580人

○受益対象者：のべ3,530人

○支出額：36,248,429円

## イ) 住宅型有料老人ホームの運営に係る事業

### ○内容

昨年度開所した「やまぼうしの家」は、12月に男性が1名入居し、年度末現在の入居者は2名である。入居者が増えず、定員の半分のため経営的には赤字の状況が続いている。

相談件数は一定程度あるが、入居に至らない。遠方に住む両親を藤野に迎え介護したいが、本人は住み慣れた家から引っ越したくない。家族が思うほど、本人は大変だと思っていない。2階への昇降困難などがその理由である。

やまぼうしの家では、ご本人が望む生活を支えている。新入居の方は、週に2〜3回八王子に仕事に行き、週に1回すずかけの家に通い、週末は自宅に帰るなど自由に過ごされている。開所当初からの入居者は、地域の運動会や防災訓練に参加し、また、のびるっこ保育園の「学童見守り」ボランティアやキッズシアターにも参加するなど、意欲的に生活されている。

日常的なご近所づきあいのほか、じじばば自由大学「名倉大刀を知ろう」(後述)の開催や地域の行事(防災訓練、運動会等)への参加を通じて、地域との関係づくりに努めている。

○日時：通年

○場所：やまぼうしの家

○従事者：20人

○受益対象者：2人(期間中の入居者数)

○支出額：10,934,388円

## ウ) 農園、訪問庭づくりを主にしたフレイル事業

### ○内容

前年度に引き続き、フレイル事業「ハート de グリーンサポート」として、訪問庭づくり、農園づくりを行った。

訪問庭づくりでは、フレイル対策として、個人宅の庭仕事の手伝いを計14回実施した。職員が経験を積み、2名で実施していた出張作業を1名で対応できることも増えた。事業をより広く周知し、また担当職員が経験を積むことで、出張庭作業の依頼内容の幅が広がった。

高齢者に対応したバリアフリーの農園づくりでは、獣除け柵・扉の設置やバリアフリーのアプローチ等を設置した。農園では、すずかけの家の利用者と定期的に農園作業や収穫物を販売用に準備する作業を行なった。新型コロナウイルスの影響もあり、なかなか外に出たがらなかった利用者も農園での収穫作業に夢中になる姿が見られた。高齢者と一緒に庭作業を行うことにより、新たな課題が明確になり、今後のバリアフリーの庭づくりのヒントが得られた。

農園を地域に開かれたコミュニティガーデンにするため、ガーデンの顔である入り口のゲートを地域の技術者に依頼し、設置した。また、地域の方に栽培方法を教わりながらウドの栽培を共同で行った。

担当職員の技術向上のため、近隣の園芸店の方を講師に園芸講習会を実施した。

本事業を広めるため、農園にて前述の方を講師に「寄せ植え講習会」を実施し、10名程の参加者があった。また、出張庭作業、農園づくり・作業の様子をSNS(フェイスブック)で発信、相模原市民がつくるミニコミ誌

『季刊アゴラ』にて、「ハート de グリーンサポート」の活動に関する記事を4回連載した。

- 日時：通年
- 場所：訪問先及びコミュニティガーデン
- 従事者：10人
- 受益対象者：60人
- 支出額：1,020,041円

エ) お楽しみ講座「じじばば自由大学」の運営

○内容・日時：新型コロナの終息状況に伴い、今年度は3回の講座を開催することができた(第1回は2度延期して開催した)。

第1回「名倉大刀のことをもっと知ろう」(9月24日)、第2回「名倉大刀のことをまだまだ知ろう」(11月13日)、第3回「PAPAS 源太&彩の癒やしの音楽” 晩秋のひと時”」(11月26日)

第1回と第2回は、「やまぼうしの家」がある名倉・大刀の地域を知る講座として企画した。地域の方を講師に、地域の歴史・文化・生活等を学び合った。地域住民をはじめ、多くの参加者があり好評であった。第2回は、参加者の熱意で急遽開催したものである。第3回は、職員が参加した研修で出会った、全国で認知症当事者への音楽療法活動をされている方を講師に迎え、職員の発案で開催した。「すずかけの家」利用者と地域住民が参加し、楽しいひとときとなった。

- 場所：名倉自治会館(第1回及び第2回)、すずかけの家(第3回)
- 従事者：5人
- 受益対象者：44人
- 支出額：10,000円

オ) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

◎イベント事業

新型コロナの終息傾向に伴い、以下の通り、主催イベントを開催し、地域イベントに参加した。

○内容(日時/場所)

地域との交流を図り、団体の活動を広めるため、次の主催事業を開催した。

- ・落語会(6月26日/すずかけの家)

地域との交流を図り、団体の活動を広めるため、次の地域イベントに参加した。

- ・ぐるっとお散歩篠原展(10月10日/緑区牧野・篠原地区)
- ・牧野公民館まつり(10月23日/牧野公民館)
- ・いろとりどり展(12月3日~11日/fujino だだッコ)(地元アーティストと福祉施設・事業所との共催)
- ・福祉のつどい(12月10日~16日/藤野中央公民館)

- 従事者：50人
- 受益対象者：400人

○支出額：155,073 円

◎組織評価

○内容

経営的行き詰まりを打開するため、参加型評価の専門家をファシリテーターに参加型組織評価を実施し、中期計画の骨子を策定した。

組織評価は、都合のつかない職員以外のほとんどが参加し、理事・監事も参加して、2月～3月（一部令和5年4月）の土日に計8回、ワークショップ形式で行った。組織の強み、弱みを出し合い、分析する中から、1.NPO法人自遊の広場のミッションの策定、2.重点課題を解決するための中期計画の策定、に取り組むことになった。

1.については、【私達は介護、福祉を通じて誰もが自分らしく「自遊」に生きる為、自然豊かな里山での「日々の暮らし」「支えあい」「繋がり」をサポートします。】というミッションを策定し、共有した。

2.については、組織強化のための重点課題を以下の2つに絞り、中期計画（3か年）の骨子を策定した。引き続き次年度に、この骨子を元に中期計画を完成させ、実施していく。

<重点課題>

1. 運営資金不足→資金の調達

2. 役割の明確化→理事会と現場の乖離、決定権の所在が不明確という分析に基づき、理事会の任務の明確化及び事務局の設置、会員制度の充実等を通じて、法人組織の強化を図る。

合わせて、資金不足を解決するために、喫緊の課題として、「やまぼうしの家」の赤字状況の解決、食費や宿泊費の値上げの必要性などの課題に取り組むことになった

○日時：1月～3月（一部令和5年4月）

○場所：すずかけの家

○従事者：30人

○受益対象者：不特定多数

○支出額：400,000円

(2) その他の事業

なし